

【群馬県明和町】

校務 DX 計画

明和町では、校務支援システムを導入することで教員の校務のデジタル化を推進してきた。また、授業面においても、電子黒板の整備や授業支援ソフト、クラウドサービスの活用など ICT の活用を進めてきた。

このように ICT 活用を進めているが、学校現場においては依然として紙の資料があることから、校務の円滑化・効率化の観点から、引き続き校務 DX を進めていく必要がある。

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、以下の取り組みや検討を行い、校務 DX を進める

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

明和町では現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と、児童生徒・教職員が教育活動で使用する「学習系」の2つに分離している。

今後は、教職員の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制限によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、校務系・教育系ネットワークの統合について調査研究を進める。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（サーバーはシステム会社）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用している。令和6年度に校務支援システムのサーバを更新したばかりであるため、次期更新は令和11年度以降となるが、県がクラウド型の校務支援システムの共同調達を計画していることから、県や他自治体の動向を見ながら、クラウド化について検討していく。

2. ペーパーレスの推進

明和町では、校務支援システムの機能により、職員間の情報交換や資料をデータで共有するなど、ペーパーレス化の取り組みを進めてきた。

また、学校から保護者への学校だよりや通知については紙媒体で配布する状況であった。この状況を改善するため、町公式 LINE を活用し文書の配布を行えるようにした。このことにより、学校欠席連絡も公式 LINE を使ってできるようになった。

今後もペーパーレス化の推進を図っていく。

3. 校務における生成 AI 等の活用

先進的に実施している学校や自治体を参考にしながら、明和町においても学校での生成 AI の利用に関する規定について検討し、教育現場や校務での利活用に向けて調整していく。